

欧州の森林の事例(フランスでの野外調査)



▶ 森林構造に伴う森林内の環境や作業性の違い

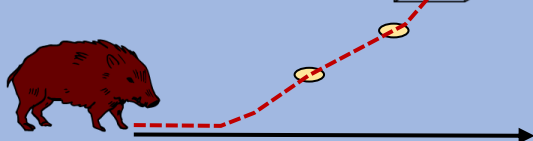
ジビエ利用の本場とされる欧州との比較

	日本	欧州
捕獲根拠	有害鳥獣捕獲、狩猟など	原則、狩猟
捕獲の期間	ほぼ通年（＋猟期）	猟期（国や対象種による）
主な捕獲手法	わな（箱わな、くくりわな等） 銃（巻狩り、忍び猟、流し猟、 誘引狙撃等）	原則、銃 （巻狩り、誘引捕獲、忍び猟、 流し猟） ※くくりわなはほぼ不使用
捕獲対象種の 所属	無主物	猟区管理者等の所有物
捕獲の目的	個体数調整による被害軽減や 食肉利用等	食肉利用やトロフィーなどの継 続的な資源利用 個体数調整による被害軽減
捕獲後の処理	捕獲従事者ごとに対応 （7割程度が埋設）	狩猟者が狩猟者団体が所有する ストックサイトに搬入して処理
その他	イノシシのサイズは小さい 群れのサイズも比較的小規模	イノシシのサイズが大きい 群れのサイズは比較的大規模

▶ 森林率や地形などの環境がかなり違っていることに注意

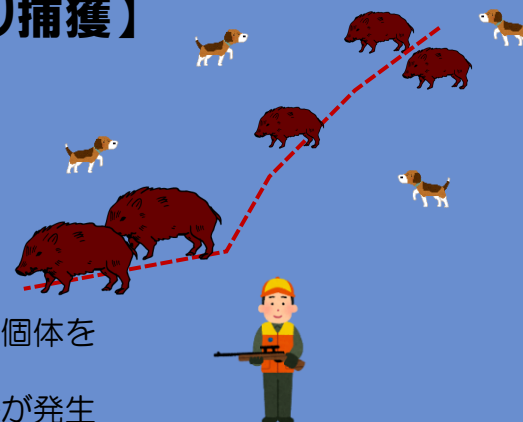
捕獲手法ごとの効果の特徴例

【箱わな捕獲】



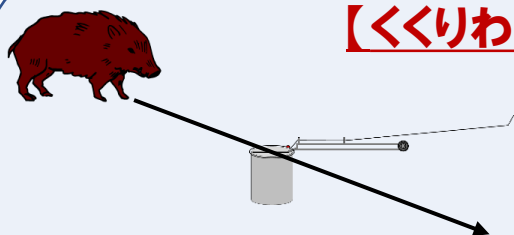
- ケモノ道からエサによって誘引する
- 誘引は数mから場合によっては1km以上
- 同時に複数頭の捕獲が可能
- スレ個体が生じる可能性がある
- 警戒心の低い個体（≒幼獣）が捕まりやすい

【巻き狩り捕獲】



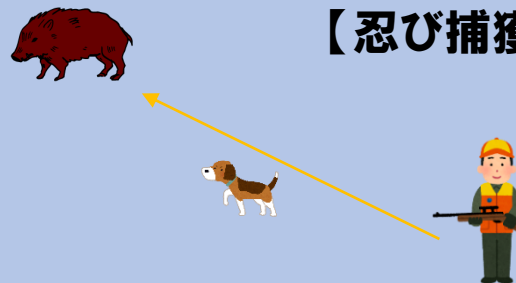
- 作業者が複数必要
- 地形の把握や人員の配置等の経験が必要（既存グループ）
- 上手く行けば周辺の個体をまとめて捕獲できる
- ただし、捕り逃がしが発生する可能性もある

【くくりわな捕獲】



- ケモノ道の上に設置する
- 通常は誘引エサを用いない場合、動物に与える影響が比較的少ない（通常は用いない）
- 軽量で複数のわなの運用が容易
- 大型の個体が捕獲されやすい
- 殺処分時に技術が必要

【忍び捕獲】



- 単独の作業者でも可能
- 銃による捕獲の中では比較的動物への影響が少ない（特にイヌを使わない場合）
- 痕跡の発見など経験が必要
- 積雪等の条件によって効率が変わる場合がある

▶ **手法により捕獲される個体や効率等が異なる場合がある**

イノシシの誘引・採食の実験(母系集団)



2020/08/05 07:42:54

▶ 優先的な個体がエサを占有する可能性がある

捕獲個体の年齢構造の一例

欧州で言われるCSF対策
の捕獲ターゲット

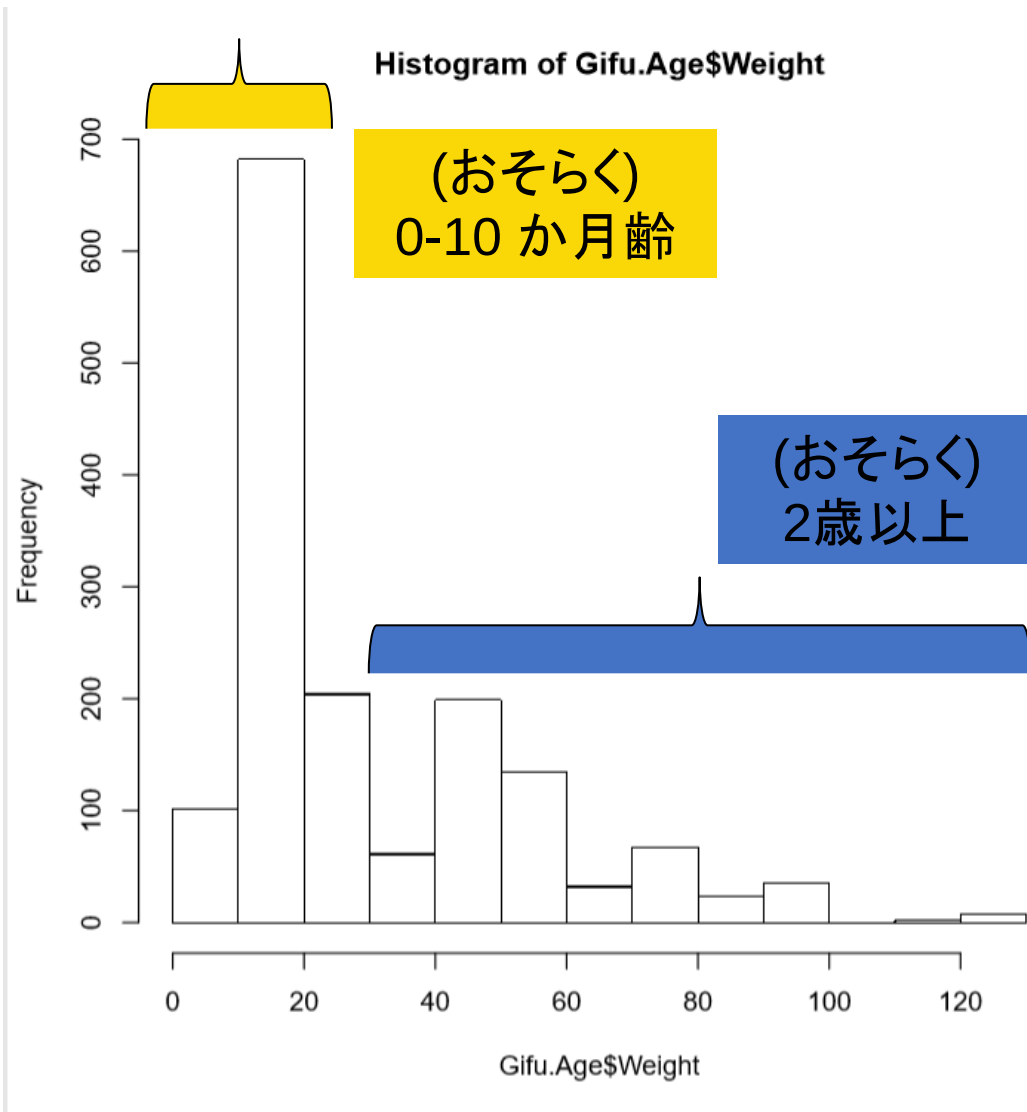
■約4か月齢のイノシシ

- ・授乳期間が終わり、
母親からの移行
抗体が消失し出す
(感受性個体)

■約2歳以上のイノシシ

- ・繁殖期に個体群を
移動して拡散の原因
となりやすい

- | | |
|-----------|----------------------|
| ① 4か月未満 | : 5.6 ± 2.0 kg |
| ② 4-10 か月 | : 11.8 ± 4.1 kg |
| ③ 10 か月以上 | : 33.6 ± 19.6 kg |



▶ 戦略的、効率的な捕獲と経口ワクチン散布が必要

豚熱における対策の進め方

	農場における豚熱対策	イノシシにおける豚熱対策
目的	豚熱発生の防除、畜産業の保護 (豚の豚熱発症を防ぐ)	豚熱発生のリスクの軽減 (自然界でのウィルス残存リスクを低減させる)
対策エリア	豚熱発生地域とその周辺関連施設	豚熱発生地域とその周辺を含む広域的な地域
具体的手法	■ バイオセキュリティの徹底 ・ 農場における飼養衛生管理基準の確実な実行 ・ 人の交差等による感染拡大防止 ・ イノシシ等の農場への侵入防止 ■ 飼養豚へのワクチン接種 など	■ イノシシの捕獲強化 ・ イノシシの分散等を助長する捕獲の制限 ・ 捕獲時の防疫体制の整備 ■ イノシシへの抗体賦与 ・ CSF経口ワクチン散布 ■ サーベイランスの徹底 など
実施範囲	農場と関連施設などの周辺や動線	農場周辺の林縁部を含む山林など

▶ 誘引、ワクチン散布方法等において改善の余地がある

イノシシのワイヤーメッシュ柵の通過方法

